水系・景観に着目した篠山市福住集落の空間構成

—篠山市福住地区伝統的建造物群保存対策調査に関連して—

The Spatial Formation of Fukusumi Village in Sasayama City with Attention to Water System and Landscape :
In Relation to Traditional Architectures Preservation Measures Investigation at Fukusumi District in Sasayama City

山 崎 寿 一*・池 田 秀 範**

Juichi YAMAZAKI and Hidenori IKEDA

I はじめに

1 研究の目的と経緯

筆者らは、篠山市福住地区伝統的建造物群保存対策調査（2007年度－2008年度、篠山市教育委員会）に集落・地域計画の立場から参加した。本稿では、篠山市福住集落を対象に、計画策定の基礎調査とその後の研究で明らかになった集落域の空間構成を、景観や水系と関連づけて考察することを目的とする。この研究は、従来、建築史・都市計画の専門家が中心となって策定される伝統的建造物群保存地区指定の基礎調査である保存対策調査に農村計画の専門家が参加した点に大きな特徴がある。また建物中心の伝建地区計画ではなく、農地、山林をも含む農業土地利用計画と町並み整備が結びついた計画を提案している点に特徴がある。

筆者らは、2006年度に集落の社会的構成と集落域の空間構成の実態を調査し、その成果の一部は既に研究発表している^{注1)}。また2008年度の保存対策調査報告書では、伝建地区指定に向けて行った計画区域の設定とその計画イメージの報告^{注2)}を行っている。本稿では、計画策定時の基礎調査に加え、農業土地利用と水系に着目し、2009年に水系と土地利用、隣保構成について追加調査を行ない、考察を行なった。

2 対象地区について

京都から丹波に向かう旧街道（京街道・篠山街道、中世以前の山陰道）沿いに位置する福住地区は、摂丹型民家が3.5kmに渡り連なり、建物と農地、山林が一体となった独特な文化的景観が特徴的である。

また、福住地区は京街道と若狭街道の交差する交通の

備考：参考文献3）より引用，加筆

図1 篠山市の位置と摂丹型民家の分布

Fig. 1 Position of Sasayama City and distribution of settan type in the farm houses

写真1 福住地区の摂丹型民家がつくる景観

Photo 1 landscape formed with settan type houses in Fukusumi district

* 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 Department of Architecture, Graduate School of Engineering, Kobe University

Key Words：1）水系，2）景観，3）福住集落，4）空間構成，5）伝統的建造物群保存対策調査

II 生活者が意識する景観要素

「福住地区まちなみづくりワークショップ」の結果から、住民がいい風景だと思う場所は、民家の裏側(デカンショ街道から見える部分)の石垣や蔵の見える景色など、街道沿いではない部分も多く見られた。

ワークショップの結果を参考に再集計し、加筆した図2より、実際にそこに住む生活者の景観に対する視線は、街並が連なる東西方向だけでなく、街道や家屋、広場から山裾、山際に向けられていたり、家の裏側の並びを南の山側や北の初井川辺りから向けられている事が多い。つまり、街道沿いの街並方向と直交する南北方向の景観構造が、街道沿いの街並を形成する景観構造と同様、重要であるということが分かる。

また、ワークショップ後のアンケートには「国道から見た蔵の景色をスケッチ、写真を写している風景をよく見かける」、「田や山を含む原風景をできる限り守ってきたい。」と言う声もあり、街道沿いの景観だけでなくその周りに広がる農地、山林、河川、池も、生活者の意識において、地域の景観の重要な要素となっている事がわかる。

III 住宅から集落域までの空間構成

1 旧街道と空間構成

福住集落は南北を山に挟まれ、東西に通る旧街道沿いに摂丹型民家による町並みが形成されており、農地はその周辺に山裾まで分布している(図3)。小学校、役場、

備考：篠山市教育委員会より提供

図3 大字福住の空中写真
Fig. 3 Aerophotograph of Oazafukusumi

駐在所、郵便局などの公共施設は、集落の中央を南北に通る道路と、街道との交差点付近に集中して立地しており、この辺りを中心に街道沿いを主として妻入民家が立ち並ぶ景観を作っている。また福住上では、特に東に行くに連れて民家と民家の間に農地や菜園が挟まる街並になっている。このように旧街道を中心に摂丹型民家が立ち並ぶ民家群、その周辺に農地、山林というように、旧街道を中心とした空間構成が街道沿いに景観を形成している。

2 水系から見た集落域の空間構成

集落の南の谷間、水無川の上流に大池(写真2)という、江戸時代に造られた人工の溜池があり、農地の多くは基本的にこの池から農業用水を引いており、住居群も

写真2 南側から見た大池

Photo 2 Oike seen from the south

図4 大字福住の水系図
Fig. 4 Figure of waterborne in Oaza Fukusumi

大池からの水掛かりによって関係付けられている。旧街道より北の地域は粉井川からポンプアップした水を利用している農地が一部あり、丸山より東の農地は主に東隣の集落にある八幡ダムから水を引いている。つまり旧街道より南の地域はほぼ大池からの水掛かりと言える。

大字福住では大池の水を水路網によって田に送り、その水が集落にまで流れ込んでいる。図4に従って大池からの水系を説明すると次のようになる。まず樋Aで水無川から水路が一本分かれ、その水路は樋Cで二手に分かれる。片方は受水域イの農地を、もう片方は受水域ウの農地を潤す。また、樋Bでも水無川から一本の水路が分かれ、こちらは受水域アの農地を潤している。aの水路は樋Aで水無川から受水域イ、ウの方へ分離した水路から分岐しており、受水域アに向かって流れている。しかし、この水路aを流れる水は樋Bから受水域アに向かって延びる水路の水が少なく、受水域アを十分に潤さない場合にのみ使用される。

さらに集落住民と池長へのヒアリングから理解した、水路と田、隣保のまとまりの関係図を図5に示した。水路がその水を流しこむ田によって、田のまとまりをつくる。その水路によって作られる田のまとまりは、同じ隣保に属する家の所有する田で構成されている。つまり、大池から引かれた水路が田のまとまりを作り、集落では隣保のまとまりを作り、いねがかり、隣保の構成につながっているのである。

また、江戸の後期に「福住の大焼け」と呼ばれる大火事に見舞われ多大な被害を被った後、大池から農地、宅地群へ向かって引かれた水路の上流にある樋を開け放つと各住戸まで水が行き渡るよう、街道沿いに水路（写真3）が新たに作られた。大池の水を防火用水としても使用する仕組みが作られたのである。水無川もその水利システムに組み込まれた一つの河川で、普段は天井川で水が流れていないが、火災時には上流で樋を開け放てば、大池の水が流れ、水無川から水を得る事ができるようになっている。大池に設置された樋の開閉の管理は池長が行っている。

写真4はかつて防火用の共同井戸兼自家用の井戸だったもので、各集落に一つはあり、火災時や水不足のとき

写真3 旧街道沿いの街並と水路
Photo 3 Houses and waterway along old road

写真4 旧街道沿いの街並と井戸
Photo 4 Houses and well along old road

図5 水路と田・隣保のまとまりの関係模式図

Fig. 5 Relationship diagram of waterway and paddies, and of waterway and neighborhood association

写真5 街道沿いの家並の裏側の石垣群

Photo 5 Stone walls behind houses along old road

写真6 T宅溜池跡

Photo 6 Track of the reservoir at T house

図6 T宅古地図に見られる水路と宅地の関係

Fig. 6 Relation between waterway and housing lot seen in the old drawing of T house

には共同で使用していた。現在は手入れされず放置され、住戸の敷地内に取り込まれてしまっているものもある。

T宅（福住上）の古図面（明治時代のもの）とT氏からのヒアリングによると、粉井川から引いた水が敷地の裏（北側）を通り、溜池と書かれた水溜（現在は埋め立てて庭になっている）が確認できる（図6）。また、井戸も二つ確認でき、敷地中央に位置する井戸は自家用だが、東側の井戸は隣家と共同で使用されていた。さらに家の北側にある溜池は、その部分だけ幅が広がった水路で、洗濯や洗い物など生活用水として使用されていた事が確認できた。この溜池を含む水路は、大池からの水路が宅地群の北側に流れ出る部分で、そこに見られる東西に連なる石垣群（写真5、6）がⅡであげた「住民が良くと思う景観」にあげられている。

以上の1、2を踏まえると、福住集落は旧街道による景観構造と、大池からの水系による景観構造の、二つの直行する大きな景観構造の重層により独特な景観を作っている。

Ⅳ 敷地と水路の関係

大字福住の社会構造において最小の社会的単位は隣保である^{注7)}。隣保は向う三軒両隣と言われるように、隣

近所の5、6軒で構成されており、葬式の時に葬儀の手伝いをする役目をもつなど比較的重要な社会単位の一つである。T氏（福住上在住）からのヒアリングにより同じ隣保に属する家を把握することが出来た。それによると、隣保の宅地群の中心を水路が通っており、それらの水路の水は福住集落の南に位置する大池からの水である（図5）。

また、上記した「福住の大焼け」後に作られた大池の水を利用した防火システムにおいて、旧街道沿いの各家屋に大池の水を運ぶという重要な役割を担っていた、旧街道の両側の水路は、各家が敷地を整備する際、水路の底をかき上げたために、現在は自然には水が流れなくなっている。伝建地区指定された場合、街並を守る防火システムの充実が重要になるが、大池の水を利用した防火システムの利用を期待できる。

Ⅴ 農業振興地域整備計画で規制されない農地の分布

ワークショップの結果からもわかるように、街並のみならず家屋と家屋の間に入り込む農地や、街道沿いから山裾までに掛けて広がる家屋の裏側の農地の保全が、福住地区の地域景観の保全にとって重要な要素になるが、

図7 福住の農振農用地と農振白地地区

Fig. 7 Agricultural promotion area and white zones in agricultural promotion area of Fukusumi

現在、そのような農地の転用を公的に規制する事ができるのは農業振興計画である。そこで大字福住における農業振興計画図をもとに、農振計画によって規制が掛かっている部分を示したのが図7である。

図7において農業振興地域整備計画における農用地区域として規制されている部分は、大別して集落南部の緩斜面の農地と、集落北部の靫井川流域の農地であり、農地保全の対象となっている。特記すべきなのは、集落南部の農地は農用地区指定されたが、住民の意向により大規模な圃場整備がされていない事である。この事により、自然地形をある程度残した農地景観を形成する結果となっている。また図2によると、ワークショップで得られた、景観保全において街並以外の重要なポイントは農用地区域に含まれない部分がある。特に、各家の敷地周辺にある農地、山裾に連なる農地が、農用地区域に指定されず法的規制が曖昧な農地となっている（農振白地）。そのような農地も大池からの水系により地域の景観と関係づけられており、そういった部分に民家の裏側の石垣の農地景観を形成している。

つまり、農地を取り巻く景観を整備、管理していくためには、農振計画による農用地区域に指定されていない農地、すなわち法的規制が曖昧な農地の整備、管理が重要であり、その整備や管理エリアをどのように設定するかということも重要になってくる。しかし、現状としては民家周辺の農地は緑の無い駐車場になっていたり、山裾にある農地は耕作放棄地や休耕地になっているところが多く見られる。農地の転用だけでなく、農地の荒廃を防ぐ為に、集落の景観を視野に入れた農地政策の方針開拓と導入が課題である。

VI 考察

II章から分かるように、実際に地域に住む生活者が良い景観だと思っている景色は、街道沿いの街並だけではなく、街並方向とは直交する南北方向のものも多く、周辺の山林、農地を含むものが多い。

福住集落の空間構成としては、集落の南部にある大池からの水系により大きく関係付けられており、大池からの水路が農地のまとまりを作り、隣保のまとまりを作っている。また、その水路は旧街道沿いの宅地のすぐ側を通り、そこには住民の生活空間が展開していた。現在もその形跡があり、その水路に防火システムの機能も期待できる。

そして重要なのは「民家裏の石垣が並ぶ景観」は大池からの水路が宅地群を抜けて宅地群の北側の水路に出る場所が連なってできた景観であり、「家並みの南側に広

がる田園風景」は大池からの水系によって形成された田のまとまりがつくる景観である。また、その奥には大池の水を平地へと流し込む谷と、大池へ水を流す山が大景観を作っている。このように民家の石垣が作る小景観から集落の周辺環境の大枠を作る山が作る大景観まで、大池の水系によって関係付けられている。このように大池からの水系と生活が密接に関係付けられた空間構成によって作られた景観を住民は評価しているのである。

しかし、上記したような街並だけでなく周辺環境も含んだ景観を守る規制は、農地に関しては農振計画しか存在せず、農振白地になっている部分にも生活者が良いと思っている景観を形成する要素が多くある。農振白地になっている部分の整備、管理をどうするかという事が、街道沿いの街並をどう整備し管理するかという事と同様に重要な事である。

福住地区の伝建地区指定において、「街道沿いに形成される景観」と、今回、重要性が明らかになった「水系方向に形成される景観」の連動的計画が必要である。伝建地区としての街並整備、またそれに伴う条例と、農振による農地景観の整備等、街並や農地山林も含めた周辺環境の一体的景観計画と農業施策、土地利用計画が一体となった景観への取り組みが重要だという事が明らかになった。社会構造や景観意識を加味して空間を捉え、「空間秩序^{注8)}」の解明にまで発展させる事を今後の課題としたい。

注釈

注1) 参考文献1)を参照。

注2) 参考文献2)を参照。

注3) 摂丹型民家は山城中部から丹波南部及び摂津西部に存在する直列式の独特な平面形式を持つ妻入民家。

注4) 参考文献4), 5)を参照。

注5) 「福住地区まちなみづくりワークショップ」「まちなみ資源の再発見」、「まちなみづくりの課題発見」、「まちなみづくりへの意見醸成」を目的として、2008年11月29日に福住地区の地元住民20名を対象に行われた。筆者らもこのワークショップに参加している。

注6) 参考文献6)を参照。

注7) 住民は1隣保、2隣保…というように隣保の前に数字を付けた名称で区別、認識しているので、本稿ではそれらを総称して隣保と記述している。大字福住の社会構造については参考文献1)を参照。

注8) 空間秩序、土地利用秩序に関しては、山崎寿一、集落土地利用計画（日本建築学会編、『図説 集落—その空間と計画』、1989、所収）、北村貞太郎他、農業土木学会農村土地利用秩序形成調査委員会、『農村土地利用秩序形成調査報告書—土地利用計画の体系化へ向けて—』を参照。また水利用の秩序に関しては、『農業水利の空間構造』等がある。本稿は、伝建地区指定のための計画を農村計画、農村

土地利用と結びつけている点に焦点を当てた報告である。

参考文献

- 1) 池田秀範, 山崎寿一, 小池広秋 (2008): 篠山市福住地区の地域構成と大字福住の段階的空間構成—伝統的建造物群保存対策調査と関連して. 住宅系研究報告会論文集, 3, pp.119-128.
- 2) 篠山市教育委員会 (2009): 篠山市福住地区伝統的建造物群保存対策調査報告書.
- 3) 永井規男 (1977): 摂丹型民家の形成について. 日本建築学会論文報告集, NO.251, 119-128.
- 4) 水ノ江秀子, 西山徳明 (2007): 明治中期の土地利用にみる合掌造り集落の空間構成と伝統的景観—白川村荻町伝統的

建造物群保存地区を事例に. 日本建築学会計画系論文集, 622, pp.91-96.

- 5) 富本理絵子, 三輪康一, 末包伸吾, 栗山尚子 (2009): 街道沿いに展開する歴史的町並み景観の構成に関する研究—篠山市福住地区における事例調査を通して. 日本建築学会近畿支部研究報告集, 49, pp.481-484.
- 6) 田林明 (1990): 『農業水利の空間構造』. 大明堂.
- 7) 山崎寿一 (1989): 集落土地利用計画 (日本建築学会編, 『図説 集落—その空間と計画』). 都市文化社, pp.191-215.
- 8) 北村貞太郎他 (1982): 『農村土地利用秩序形成調査報告書—土地利用計画の体系化へ向けて—』. 農業土木学会農村土地利用秩序形成調査委員会.

We clarified the following points in case of Fukusumi village, and made the plan image chart. The preservation measures investigation spent up to 2008 so that it was specified for the traditional architectures preservation district in Fukusumi village in 2007 and it was done. 1.It paid attention to the address space configuration of the village by the water system, and the mechanism that the scenery was characterized was clarified. 2.An important landscape element and the line of sight were visualized from the scenery that the dweller in the region was recognizing. 3.The thing that became a problem when the element was preserved or was maintained, and managed was arranged.

Key Words : 1) Water System, 2) Landscape, 3) Fukusumi Village, 3) Spatial Formation, 4) Traditional Architectures Preservation measures investigation

(2009年7月23日 受付)

(2010年2月19日 受理)